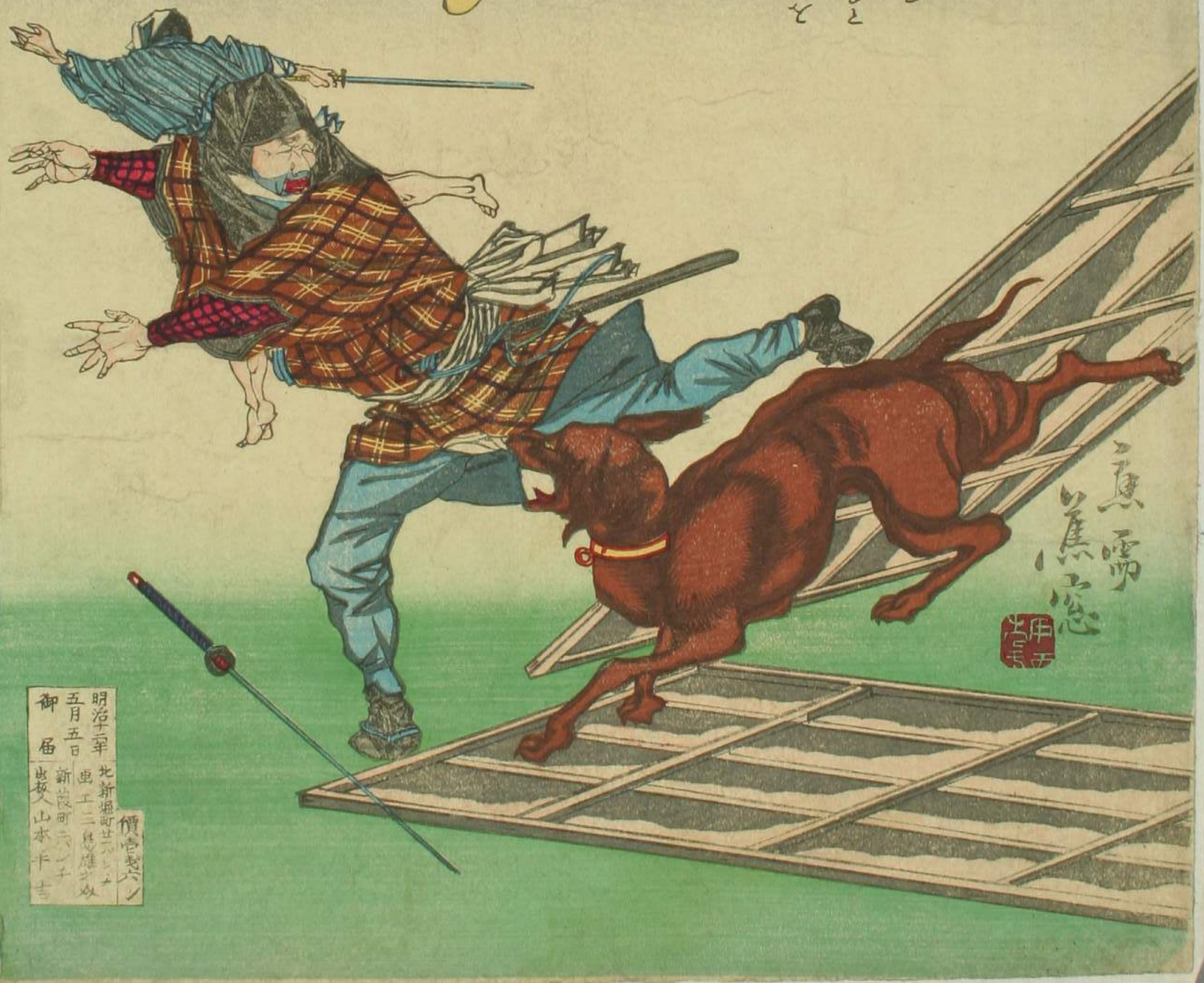


東京各社撰抜新聞

波戸場不近く打寄る沖津白波たう山夜に深々と更さう
 午前二時おぼろき頃横濱の南京町百八十何番館の内住む
 洋妾吉野らへ方へ押入し強盗ハ抜刀をひき出し声を立てると
 命が惜しむと極り文句で威しおらなく下女のおまんを
 縛り今一人の下女おまんを引取り起し金の在る所を案内
 せよとせせせらさ一度の怖りせよとの中々性根の居る女
 ハイと云つてさうり案内をとるあつて入口小寝てゐる
 二足の洋犬の綱をとれまと言さぬ戸を明ると二足の洋犬ハ
 直ち飛込と賊とつらより突然向腹へ咬つて二人の
 賊ハ逃まひうらうらと二足の洋犬ハ益々怒りて
 咬付めを賊ハ恐まて何事も取らぬ命をうぐ逃失する於曲
 喜らび主人とおきんの繩を解無難一済しと祝を所ハ犬の
 非常ハ吠ると聞付おらくの且那も尋ね来てあり
 次第を委しくおとよが氣轉を賞美なり金十圓を
 褒美にとりせ洋犬をますます大切りなすと云ふ
 是ハ明治十二年二月中旬のころの事なり



明治十二年 北新堀町
 五月五日 西工二島雄次
 御届 新設町六丁目
 山本千吉